

## 会議議事録

会議名	2019年度第2回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2020年2月28日(金) 10:00~12:00
場所	本校 1階 会議室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：大沼扶久子（公益社団法人東京都看護協会西部地区理事）、中西佳美（医療社団法人河北医療財団天本病院看護・介護部長）（計2名）</p> <p>② 本校委員：橋本正樹（校長）、前田律子（看護科担当副校長兼看護科学科長）、伊東由美（看護科副学科長）、宮下明久（事務局長）（計4名）</p> <p>③ オブザーバー：岡本隆行（看護科教員）（計1名）</p> <p>④ 事務局：松本晋圭、安里良美（計2名）</p> <p style="text-align: right;">（合計9名）</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2019年度第1回看護分野教育課程編成委員会議事録（案）、□資料2：前回委員会以降の主な経過報告 別添A：2019年度学校関係者評価報告書、別添B：看護科・学年別の回答数と比較、資料3：シラバス（野外活動）、資料4：実習アンケート変更目的、資料5：比較資料アンケート、資料6：授業過程評価スケール目的、構成要素の意味、資料7：実習アンケート結果（成人Ⅱ）、資料8：2019年度教員研修計画・実績（看護科）、資料9：2021年度在宅看護論実習一部変更に向けて</p> <p>② 当日回覧資料：2019年度講義要項（看護科）、2020年度実習要項</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、来年4月から高等教育の一部無償化が始まるが、本校もその対象校として認定された。新たな修学支援の仕組みには教育の質の保証と情報公開、その前提となる自己点検・自己評価、教育課程編成委員会等、PDCAサイクルに基づく活動が求められている。医療の現場でも働き方改革の流れにより大きな変化が生まれつつある。本日は、看護分野の仕事の現在、将来について専門家の視点から貴重なご意見を頂くとともに、本校の教育やカリキュラムへの提言を頂きたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認（資料1）</p> <p>事務局より議事録（案）について諮り、修正がないことが確認され、この後委員名の削除等の調整をしてホームページに公表することが了承された。</p> <p>3. 2019年度の活動報告等について</p> <p>①2019年度第1回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長・事務局松本）</p> <p>資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p>

4. 2019年度第1回委員会における意見・提案に対する報告

①カリキュラムについて（野外活動）（説明者：前田学科長）

資料3に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

③ 実習アンケート変更（説明者：伊東副学科長）

資料4～7に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2020年度の教育活動と学科運営等に向けて

①2019年度教員研修計画・実績（説明者：前田学科長）

資料8に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

②2021年度在宅看護論実習一部変更に向けて（案）（説明者：前田学科長）

資料9に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 次回日程、その他

委員よりカリキュラム、教育課程について意見を頂いた後、次回の日程調整が行われ、2020年7月14日（火）午前10時～12時で開催することが決定した。

以上

## 2019 年度第 2 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

### 3. 2019 年度の活動報告等について

○宮下事務局長、事務局松本より、資料 2 に基づき以下の報告が行われた。

#### ①職業実践専門課程関連

・2月10日に、学校関係者評価委員会報告書が提出された。(別添A)

#### ②学生の状況関連

#### ③アンケート関連

・後期授業アンケートを12月に行った。別途、学校生活に関する満足度調査も実施している。

○前田学科長より、以下の補足説明が行われた。

・教員の指導の仕方、発問の仕方に関する意見があった。個別の意見は、先生方に返して後半の講義に生かしてもらっている。

#### ④学生募集関連

### 4. 2019 年度第 1 回委員会における意見・提案に対する報告

○前田学科長より資料 3、伊東副学科長より資料 4～7 に基づき以下の報告が行われた。

#### ①カリキュラムについて（野外活動）（資料 3）

・野外活動を2年次から1年次に移し、目的を本校の方針（TPC の育成）に沿って変更した。内容は野外研修と室内研修に分け、それぞれ社会人基礎力を初期の段階から学ぶものとなっている。

#### ②実習アンケート変更（資料 4～7）

・実習環境が改善されてきたことから、アンケートの目的、内容を変更した。

・実施時期が前期の実習が終わった後になるため、9月からの後期の実習に反映できないこと、今年度は在宅のアンケートができなかったことが課題。

○委員からの質問・意見・提案と意見交換等

質問・意見等	回答等
<p>アンケートは病棟別にやれば、相互に実習環境の調整になる。このデータを実習連絡調整会等に生かしてほしい。</p> <p>スケールを5段階にしたが、3と4の評価をどう判断するかは難しいところがある。</p> <p>実習指導者の関わり方を部署別で比較すると、実習環境が見えてくる。</p>	<p>既存のものを使ったので、その辺は検討課題になると思う。</p> <p>アンケートは現状確認の意味では効果があるが、問題点を摘出するにはインタビューなどの質的調査を行うとよく見えてくるかもしれない。</p>

5. 2020年度の教育活動と学科運営等に向けて

○前田学科長より、資料8・9に基づき以下の報告が行われた。

①2019年度教員研修計画・実績（資料8）

・3月に東京都看護系学校連絡協議会の研修を予定していたが、状況に鑑み中止とした。

②2021年度在宅看護論実習一部変更に向けて（案）（資料9）

・現行カリキュラムは、病院完結型医療に対応した内容と方法が大半を占めるが、今後は地域完結型のチーム医療が求められる。社会保障制度改革による医療提供体制の変化に対応し、これからの時代を拓く人材育成として看護基礎教育カリキュラムが2022年度に改正される。本校においても、この方向性に準拠した在宅看護論実習の見直しの準備に入っていきたい。地域包括的な視点を入れた在宅看護論実習を考えていく必要があると思うので、ご意見をいただきたい。

○委員からの質問・意見・提案と意見交換等

質問・意見等	回答等
<p>地域医療連携室は、河北で急性期病院の実習をされていて見るチャンスもあるので、1週間やる必要があるのか。</p> <p>訪問看護の2週間は長過ぎる。4日間ぐらいで十分かと思う。透析・学内のところに、天本病院の地域包括ケアを入れてはどうか。</p> <p>天本病院には、地域包括支援センター、グループホーム、フィットネスサロン、通所リハビリもあり、箱物は一応そろっている。</p> <p>在宅は狭義ではなく、地域包括ケア実習と捉えるとよい。</p> <p>病棟実習とは違うので、指導体制も例えばケアマネが長になってもよいのではないか。</p>	<p>天本病院は学ぶには最高の環境だと思うので、さらに情報を収集し、こちらの実習の目的、位置付けを明確にした上で、相談させていただきたい。</p> <p>東京都に確認しようと思う。</p>

6. 次回日程、その他

・2020年度第1回委員会の日程について協議した。

（参考・次回の予定議題）

①2020年度の教育活動と学科運営の進め方説明

②2021年度入学生カリキュラム案他へのご意見伺い他

③2021年度在宅看護論実習一部変更に向けて

○全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

質問・意見等	回答等
--------	-----

<p>社会人基礎力のベースになるのは基礎学力と生活力だと思う。1年時に合宿を行い、そこでその子の生活力が見られるのはよい。あとはメンタルがなかなか難しい。</p> <p>メンタルは簡単には見抜けないが、看護師は弱い人が多いと思う。</p> <p>組織に入ると目標管理が必要になるが、学生のときに学んでいないので、2年目ぐらいから理解できるようになる。</p> <p>学生は、地域を実感することがない。導入部分で地域を感じてもらおうような仕掛けのアクティブラーニングなどをやらないと、成果に結びつかない。</p> <p>今6人で実習に行っているが、倍の12人というの はどうか。</p> <p>国家試験は、知識や判断力だけでは難しく、読解力を上げないと学校全体で100%の目標は達成できない。現場ではコミュニケーション能力になるかと思うが、その辺をどう教育課程に入れていけばよいか、</p>	<p>柔軟に対処することができない学生が多い。面接も突っ込んだところは聞けない状況がある。</p> <p>専門学校の場合、ペーパー学力は厳しくても日常的なところで気が利いたりする学生がいる。そういう職業人としての素養を伸ばしていきたい。</p> <p>その辺を入学時や卒業時の面接でどう見極めていくかが難しい。</p> <p>組織の文化に順応していけるかは大きい。基礎教育ではその辺を見ていかなければならないと思う。</p> <p>都内でも場所によって地域の概念が変わってくる。</p> <p>それが分からないと地域包括が理解できない。</p> <p>大学の地域看護学では、地域診断から入っていく。専門学校でも、カリキュラムが改正されると、そのレベルが求められてくるものと思う。地域を知って、対象をよく理解してから、そこで暮らす人たちへのケアに広げる必要がある。</p> <p>日看協の会長が言っている看護基礎教育4年化も、遠い未来ではないような気がする。</p> <p>複数箇所を用意して、2日ずつローテーションしている大学もある。デイケアでは、午前と午後でグループチェンジをするなど、いろいろな方法が取れると思う。</p> <p>鍼灸などでは、読解力をつけるために問題を作らせて、文脈をたどるということをしている。</p>
--	---

<p>アドバイスをいただきたい。</p> <p>実習は、書く技術を向上させるチャンスだと思う。自分の考えがきちんと文章で述べられているかを徹底していけば、読解力は上がるのではないかな。</p> <p>講師の先生から、メモを取らない学生が多いと言われている。</p>	<p>読解力と背中合わせにあるのは記述力だと思う。</p> <p>実習ノートを書くことが理解力やまとめる力につながる。一番身近で日々の積み重ねができる教材だと思う。</p> <p>看護協会の研修では、各単元のフリクションシートを書かせる。短時間で自分の考えをまとめて書かなければならないので、文章力にもつながる。</p>
--	--

以上